

目で見える疾病状況
事業の紹介



現代は物が豊かになった反面、心のあり方が問われる『こころの時代』とされています。そこで今回は精神保健事業について紹介します。

都留市において、最近目立つのが母と子の心の健康問題です。出産後の生理的なホルモンのアンバランスが原因で情緒不安をおこし、産後うつ病をおこすことがあります。子どもへの適切なかわりが発達を上手に導くのですが、親の体調が悪いと子育ての負担が一層強くなり育児にも影響が出てきます。

また青壮年期では不慮の事故や自殺などいわゆる外因死が、全国の死因統計で上位を占めています。近年の都留市の20歳から64歳の男性の死因も上位1位、2位に事故・自殺が上げられ同様の傾向にあります。さらに国民健康保険の統計をみると、69歳以下の人が医療機関に受診している件数は、高血圧、糖尿病、がんに次いで精神及び行動の障害による病気が第4位に上がっている状況に有ります。ここでも心の健康が害されることが垣間見られます。

そして老人の状況を見ると、介護保険介護認定者の原因疾患において第2位に認知症(痴呆)が上げられており、老人の心の健康についての課題があります。これらの状況のもと、心の健康問題を抱えた方への生活支援のために次のような精神保健事業を行っています。

①精神保健相談及び指導

心の問題を持つ本人及びその家族などからの相談に応じ、その人の希望や心の状態を見ながら地域の中で心地よく生活ができるよう、必要な助言指導(ケアマネジメント)を行っています。

②精神保健福祉に関する支援事業の実施

精神障害者保健福祉手帳、医療費助成制度、社会復帰施設(授産施設、地域生活支援センター)、小規模作業所など、居宅生活支援事業(ホームヘルプサービス、グループホーム)などの利用ができるよう相談に応じています。

③精神障害者家族会への支援

都留市には精神障害者の家族で組織する『むつみの会』があります。心の障害を持つ人の家族が、障害者が地域の中で幸せに生活し健全な家庭生活が守れるよう、精神保健の思想の普及と啓蒙及び社会福祉の充実促進のために、研修会、講演会、交流会、治療や社会復帰への協力などの活動を行っています。市は、これらの活動がスムーズに進められるように支援しています。

④精神障害者小規模作業所への支援

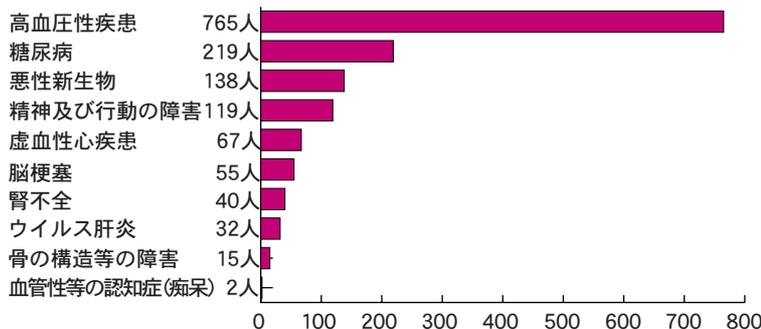
精神障害者家族会『むつみの会』が設置主体の精神障害者小規模作業所『むつみの家』では、在宅の障害者が軽作業をしながら、社会生活に適應する訓練や習慣を身につけるための場として幅広い活動を行っています。市は、就労援助や社会参加・自立への援助の場として上手に活用できるように支援しています。

心の健康問題などを抱えた方、保健師が相談をお受けします。秘密などは厳守されますので気軽にご相談ください!

※心の健康を保つためには、体調不良の心のサインを家族を始め周囲の方が早めに気づき早期に対応することが大切です。ここに掲げた精神保健相談など各種事業についての相談は保健師がお受けします。気軽にご相談ください。

健康推進課 保健指導担当
☎(46)5113 内線124

①都留市国民健康保険平成16年5月疾病別受診件数(69歳以下)



②介護保険要介護認定者の原因疾病割合(平成14年8月)

